



国鉄新潟

NO. 899
 発行 2016年
 12月29日
 国鉄労働組合
 新潟地方本部
 発行責任者
 齊藤 仁司
 編集責任者
 教 宣 部

守さんお疲れ様でした

守橋久仁雄さんを偲ぶ会



新潟市東映ホテル 45名の出席

守橋久仁雄さんを偲ぶ会が12月22日に開催されました。新潟市「東映ホテル」で15時から開会し45名の方々が出席しました。偲ぶ会では、親族、国労関係、退職者、地域共闘組織など出席され、2時間と限られた日程でしたが、守橋さんの思い出話など多く出されました。

初めて出席者全体で黙祷を行い加藤副委員長の開会あいさつでスタート「今日は多くの方々が出席していただきました。それは彼の人柄と国労新潟の運動を先頭に立って取り組んできた、たまものだと思います。」とありました。



国労本部 唐澤書記長あいさつ

偲ぶ会に出席し、守橋久仁雄氏に対して哀悼の意をささげます。国労は結成して本年度70年を超え鉄路を支えてきた。国労は1946年2月に総連合として結成された。国鉄では10万人首切り、安保闘争、マル生、スト権スト、そして国鉄の分割・民営化などの闘い、大きな闘いの連続だった。守橋さんは数々の役員を歴任し



た。地本役員・地域のリーダーとして活躍されていた。しかし病氣におかされていた。これまでさまざまな運動に対して感謝申し上げたい。家族の方々も含め労災認定へ全力をつくす。国鉄分割・民営化されて30年の節目になる。分割・民営化後はどうなのか。JRの運営について厳しい現状にある。JR北海道は単独経営ができなくなっている。合理化で利用者へのサービスの低下など厳しい実態がある。経営破綻をしている。国労はJR発足して30年を問う全国キャラバンを展開する。憲法・戦争法・国民的課題などを訴えて国労加入を呼びかける。守橋さんからも私たちの運動に叱咤・激励をお願いしたい。大変長い間ありがとうございました。



斎藤委員長 あいさつ



本日は、守橋久仁雄氏の偲ぶ会に万障繰り合わせの上ご参集ありがとうございます。偲ぶ会の始まりは、東京地区の故人の同志的結びつきの強い仲間から、家族の意向から葬儀は家族葬で行われたため、故人とのお別れと偲ぶ会を開いてほしいとの要望が強く寄せられました。

故人は、労働災害の犠牲となりそれを認めさせること、早急に取り組む必要に迫られています。今日の、偲ぶ会を開催し、今後は、出席の皆様と労働災害で犠牲になった故人・家族とともに闘う契機場にできればと思います。

機関としては、本部・エリア本部の助力を受け副委員長・書記長を中心に労働災害対策会議を立ち上げ、認定に向けて取組みを進めていきます。

守橋氏とのエピソードをご紹介してご挨拶とします。私が、青年部時代の話ですが、春闘の青年部中央行動のデモ行進中の出来事です。私の隣に、過激な考えの持ち主がいて機動隊に挑発的な行動をとっていました。それに対し機動隊はその人物をデモ隊列から引きはがし、公務執行妨害で連行されようとしていた状況でしたそれを阻止しようと守橋氏が間に入りその人物の代わりに連行されていきました。

個人的感想としては、その時、当該の人ではなくなんで彼がと思いました。これが青年部中央行動での最初で最後の出来事です。守橋氏の声を荒げる場面も遭遇したこともありませんでした。

これから、さらに活躍する場面が多くある中で、労災により道半ばで閉ざされる無念さは余りあると思います。本日は、故人を偲び思い出の話を交わし、皆様の持ち場、持ち場でさらに活躍することを祈念し簡単ではありますが、あいさつに代えさせていただきます。



元東日本本部・副委員長 藤野節さん あいさつ

守橋さん長い間ご苦労様でした。私は守橋さんではなく守さんと言つてつき合いをさせてもらつていた。23年前、定期大会の時、彼が酒を飲みながら語つた言葉で「小国と言えども一国一場の主だ」と話していた。

国労の果たしてきた役割など中心的な運動を担ってきた。その力が、参議院選、知事選など勝利した。やればできることを証明した。

国労が中心になって統一戦線を広めていく。沖繩への激励、支援、オーソスプレーは不時着と報道したがあ



これは墜落だ。

13年間、役員をやられたが、その生きざまを感じている。エリアのOB会で直江津へ旅行の企画、春日山に集まったメンバーで墓参りをしたい。守さんのことが忘れられない。

御二人のあいさつの後、県労連の佐藤議長より献杯していただきました。

献杯 県労連・佐藤議長

国労の皆さんから県労連に加盟している。守橋さんから、参議院選、知事選、地域の取組みなど先頭に立つて、労働者階級のために闘い続けてきた。それに対して献杯。



献杯の後、しばらく御歓談していただき、2名の方に思い出話をさせていただきました。

会場は、久しぶりに御逢いした方々なのか各テーブルでは昔の話など盛り上がり上がっていました。退職されてからも地域の活動に取り組んでいる方、退職者組合の役員

NRU **2017年**
地本旗開き
2017年1月21日(土)
新潟市東映ホテル

をされている方など、退職後さまざまな活動を続けているようです。

元新幹線第2運転所 渡辺克博さん

1982年、上越新幹線の開業で新潟に来た。守橋さんと2運で初めて逢った。

思い出は、いっぱいある。全部話すと1~2時間はかかる。人にはものすごく気をつかった人でこの病気を知ったのは最近だった。じん肺だった。医者に言われていないと、いっさい言わなかった。彼の思い出は、順法闘争を先頭に立つてやった。分割・民営化の闘い



の時、BSNへ取材を要請し国鉄の分割・民営化反対を訴えた。

守橋さんは、ちよつと早すぎた。そちらの世界には、いづれ皆が行くから、そう遠くない時期に行く。しかしもうちよつと、この世にいたいと思つている。



退職者組合・直江津支部 内山事務局長

走馬灯のように沢山の思い出である。佐渡へ泊りがけで行った。泳ぎが上手だった。歌も上手だった。青年部の中央行動で守橋さんが機動隊に拉致されたことがあった。これから仲間を裏切らず取組みなど進めていく。大変お疲れ様でした。



守橋さんの思い出話は、多くの方々からお話していただきました。その後、守橋さんは、うたごえ運動に積極的に取り組んでいたことから、2曲歌い、最後に全体で国鉄労働組合歌を歌いました。

親族 守橋道容さん

親父は家族に対して感謝の言葉を話していた。いま、親父はホットしていると思う。ベットで寝ている時2運の方と話している時が一番うれしく思っていたらしい。



15時から2時間という限られた日程でしたのでまだまだ話し足りない雰囲気が続いていました。多くの方々から、守橋さんの思い出話が語られました。ありがとうございます。

